

## 寫生地案内

### 三 脚 子

#### 國 府 津

時々強い風は吹くが、海のほうも面白からう。この季節では東海道の國府津邊が寫生によい。

春の海といへど、國府津の海岸は割合に浪が高い。酒匂近くによくと、波だけ寫すによい場處がいくらかもある。

濱が廣いので、船が一つあれば、自分の動き方でいくらでも面白い位置がとれる。砂もキレイで、まだこの頃には、緑の混らぬ枯艸がちらほら見えやう。

背景には、箱根の二子山、明神嶽、駒ヶ嶽、處によつては富士も畫中に入る。近くには、風に曲つた趣ある松林があつて、海岸だけでも、五枚や六枚のスケッチは得られやう。

停車場の後ろの山を登ると、南國特有の蜜柑の樹が澤山ある。

その暖かい葉の色、圓いこんもりした形は、何とも云へない美的なものだ。これを前景にして、海の見下し圖が畫ける。漁村の屋根を高く貫ぬく棕櫚の木も、無論畫中のものである。

山には梅があるが、もう遅からう。奥深くゆくと、よい松林があつて、雨降山の方が見える。この山の、春の夕日をうけた感じは中々よい。

山を下つて、東海道を酒匂の邊までゆくと、途中道路山水として畫きたい處がちらほらある。酒匂川は、去年の水害でいま土木工事で混雜してゐるが、川口のあたりは、靜かな水もあつて

箱根の方を向ひて畫いたら物にならう。

此川を溯つて少しゆくと、堤に形のいゝ松並木がある。明神嶽近くの村へ入ると、小さな沼もある。浮草など漾ふてゐて、むづかしいが繪にはならう。

酒匂川の口へ戻つて、濱邊を國府津へ向ふ途中、松濤園の裏のあたりには、砂原に枯芝が多く残つてゐて、何とも云へぬよい色をしてゐる。此芝と、空に舞ふ二三の鷗とで立派な繪が出来る。

國府津には、吾々寫生家に適當な宿屋が無い、停車場前の大きな家は、長く居られまい。若し泊るなら、蔦屋の方が靜かだとの話だ。町を四五丁往つての端れに、親木橋といふのがある。

其際に、富士見屋といふ舊式の宿屋がある。こゝでも安くは泊れないが、三脚を見せて話をしたら、特別の待遇はしてくれやう。是迄随分三脚が泊つた家だから。

小田原方面は別に紹介する。

△臺灣總督府中學校寫生班水彩畫展覽會は、一月二十九三十兩日同校に於て開會。八十餘點の出品あり。臺灣總督其他官民の多數來會觀會を極めたりといふ。寫眞は次號に掲載すべし

△臺灣紫瀾會にて發行する『寫生趣味』は、編者多忙のため當分休刊さるべし。